



「異文化理解と多文化共生」 発展途上国の子どもたちの現状

沖縄県立具志川高等学校

〒904-2236 沖縄県うるま市喜仲3-28-1 ☎098-973-1213

ねらい
(育みたい
児童・生徒像)

発展途上国の子どもたちの現状を知り、その課題を自分ごととして捉え、私たちにできることは何なのか、身近なことから考えることができる。

授業・実践内容 【実践者】澤岷良子教諭

アフリカのガーナ、フィリピンの子どもたちが活動している写真を見て、何をしているのかを考える(フォトランゲージ)。「その原因は何だろうか」をグループで話し合い、まとめる。

映像「世界がもし100人の村だったら」を視聴し、世界には児童労働、ストリートチルドレン、学校へ通えない子どもたちが現実に存在することを知る。その課題と「私たちの生活が結びついていることは何だろうか」「できることは何か」を問い、理解を深める。SDGsの17ゴールにつなげて考える。

教科	倫理
対象	2・3学年 (各40人)
時間	50分 ×2コマ



途上国の子どもたちが1日中働いていることを知り、自分とは置かれている環境が違うことに気付くことができた。私たちの食料や資源がそれらの国々から輸入されていることを知り、つながりに気付くことで「私たちにできることは何か」を考え、深めることができた。「途上国へ文房具を贈ろう」と企画し、全校生徒へ呼びかけて実現することができた。

教員の反応・変化 生徒が世界に目を向け、途上国の課題と私たちのつながりを発見し気付くことを手助けた。そして何が出来るのかを共に考えた。さまざまな生徒の視点をSDGsのゴールにつなげることができた。

課題 世界各国の課題を、自分ごとにし、身近な問題として考えることができるよう、新聞や視聴覚教材を工夫をしていくことが必要。また、物があふれている私たち日本の課題を考える視点を、今後の授業で取り入れていきたい。

教材・参考資料

- ▶「戦場カメラマン渡部陽一が見た世界」(渡部陽一著、くもん出版)
- ▶DVD「世界がもし100人の村だったら」(池田香代子、マガジンハウス)
- ▶「未来の授業 私たちのSDGs探求BOOK」(佐藤真久監修、宣伝会議)